

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立百舌鳥支援学校
校長 山下 真由美

<p>令和7年度 重点目標 「笑顔にあえる学校～子ども・保護者・教職員～」</p> <p>1 子どもにとって楽しい学校…一人ひとりの障害特性とニーズに基づき、きめ細やかな支援の充実、教育課程におけるキャリア教育の推進、ICTを活用など、教材教具の工夫による授業力の向上、食育の推進、進路指導</p> <p>2 保護者にとって元気が出る安心できる学校…教育相談体制の確立、学校HP等学校情報の積極的な発信、「個別の教育支援計画・指導計画」を活用した保護者や関係機関との連携、学校安全の充実</p> <p>3 教職員にとって生き生きとした学校…支援学校教員としての専門性の向上をめざした組織的な校内研修の充実、職員間の「報告・連絡・相談」を基礎にした、チームとして児童生徒への支援、教職員の働き方改革(ワーク・ライフ・バランス)の推進</p> <p>4 保護者と地域から信頼される学校…支援学校のセンター的機能を発揮し、学校園への地域支援の推進、共生社会の実現に向けた交流および共同学習の充実、コンプライアンスの遵守と服務規律の徹底</p> <p>5 本市支援学校の教育条件充実への参画 ……分校開校に向け、市教委と連携し、教育課程の編成など教育環境の整備</p>
--

学校の現状
本校は、知的障害児のための小中一貫の支援学校で、令和7年5月現在の在籍は、小学部123名、中学部112名の計235名である。本校では、「人として”生きる力”を育てる」を学校教育目標として掲げ、①元気なからだ(元気に生活する体力・運動する力)、②生活する力(基本的な生活習慣、家庭生活・地域生活・社会生活に必要な基本的な力)、③まじわる力(人とかかわり、集団に参加する力やコミュニケーション力を高める力)、④あじわう力(文化を学び、豊かに生活を送る基礎的な力)、⑤はたらく力(労働の基礎となる力、職業観の基盤となる力)の5つの力をつけることを具体目標に掲げ、障害の多様化のなか、児童生徒一人ひとりの実態に応じて、個別のニーズに応じた学習活動に取り組んでいる。

また、本校の児童生徒が、社会の一員として、豊かな生活を育むことができるようにするため、本校の児童生徒に関わる子どもの障害児理解を推進するため、近隣校や居住地校等との交流及び共同学習に、積極的に取り組んでいる。また、学校HPはじめ、あらゆる機会を用いて、本校の教育活動について発信をしている。その一方、ここ数年、生徒数が大幅に増加し狭隘化解消のため、令和8年度に宮園分校が開校予定であるが、今年度も教室不足が解消されず、また校舎・設備の老朽化と狭隘化が喫緊の課題である。加えて、支援学校教育に関する専門性の向上も本校の課題である。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認(～10月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	に教育応じた二取組	一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導や支援に努める。	・児童生徒一人ひとりの障害の状態や特性を的確に把握するとともに教職員で共有し、個に応じた支援に取り組む。 ・ソーシャルスキルを高め、友だちや教員と良好な人間関係を築く。	・教員が子どもの実態を理解し、適切な支援の結果、子どもが楽しく学校に行っていることと保護者が捉えている。	学校教育アンケート(保護者・教職員)	3学期	○ ・保護者、各関係機関と連携し「個別の教育支援計画」に基づいた指導支援に取り組んでいる。	○ ・学校アンケートの「子どもにあった指導や支援を行っている。」には97%の保護者が昨年と変わらず肯定的な意見だった。今後も引き続き保護者と連携していきたい。	○ ・子どもの学校生活のようすを保護者を取る手段の一つに連絡帳がある。連絡帳は、普段のやり取りはもちろん、子どものよいところや頑張ったことも発信できる。今後も丁寧な連絡帳のやり取りをしてほしい。
	専門性の向上	支援学校の特色を生かし、専門的な指導の向上やより良い授業づくりに努める。	・障害の理解を深めるとともにICTを活用した教材を工夫するなど適切な指導と支援に取り組む。 ・各教科領域において学びの連続性を意識した系統性のある授業を実践する。 ・支援学校教員の専門性を高めるための研修に取り組む。	・障害理解や指導方法などを工夫しながら取り組んでいると保護者が捉えるとともに、教員自身が研修に積極的に取り組んでいる。	学校教育アンケート(保護者・教職員)	3学期	◎ ・夏に「強度行動障害」についての研修を行った。自閉症についての知識が深まった。	◎ ・夏の「強度校移動障害」の研修を専門家を招いて話を聞くことができた。 ・今年度は、「球技」をテーマに系統だてた指導を研修を行った。	◎ ・支援学校の特別支援教育の専門性が求められている中、研修の充実は欠かせない。昨年度に続き、「強度行動障害」の研修に取り組まれたことは大きい。単発で終わらず、継続してほしい。
健やかな心豊かな体	自立と社会参加	一人ひとりの自立や社会参加を実現していくための指導や支援に努める。	・保護者と連携し、「個別の教育支援計画」を作成するとともに、「個別の指導計画」を活用し、支援の成果と課題について、保護者と共有する。 ・児童生徒の実態や課題に応じた合理的配慮について保護者と共有し、その実現に取り組む。	・「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」が学校と保護者の共通理解に役立っていると教員・保護者が捉えている。	学校教育アンケート(保護者・教職員)	3学期	○ ・「個別の教育支援計画」、「個別の教育指導計画」の作成と活用について、年度当初に全職員で共通理解を図り、保護者と共有している。	○ ・学校アンケートの学校は「個別の指導計画」を保護者に分かりやすく説明している。という説問に99%の保護者が肯定的にとらえられている。しかし、子どもの指導や支援の引継ぎを適切に行っているのは94%となっている。引き続き、保護者に丁寧な説明と引継ぎを行っていく。	○ ・「個別の支援計画」、「個別の指導計画」は、子どもたちや保護者にとって大切なものである。今後も丁寧な説明や引き続き連携してほしい。
	交流及び共同学習の充実	共生社会の実現に向けて、交流及び共同学習等を充実させる。	・近隣校との交流や居住地校交流、啓発授業等の取組により、交流及び共同学習を推進する。	・参加者や相手校が交流等を肯定的に捉えるとともに、次年度も継続して取り組むことを希望している。	学校教育アンケート(保護者・教職員)各交流・行事のふりかえり	3学期	○ ・近隣校や居住地校交流が昨年並みに実施できている。啓発授業は、2回実施。	○ 近隣校の交流は、昨年度と同様実施できた。居住地校交流も29校のべ33人の児童生徒が参加し交流をすることができた。	○ ・居住地校交流は地域に子どもたちを知ってもらう大切な機会であり、地域の子どもたちにも出会いの場でもある。両者にとって有意義な時間を作ってほしい。
開かれた学校づくり	機能の充実	支援学校の専門的な知識や技能を生かし、地域における特別支援教育の充実に努める。	・外部専門家と連携し、地域の小中学校等に対し適切な助言を行い、支援学校体験見学会を実施し、全市民的な指導力の向上に寄与する。 ・地域及び関係機関に対し、体験・見学・講習等を実施し、啓発に努める。	・支援教育課が行う「支援学校センター的機能活用(外部専門家派遣)」のうち半数以上を地域校の支援に活用し、対象校から肯定的な反応を得る。	各アンケート及び外部専門家活用回数	3学期	◎ ・近年、小中学校への地域支援が増加している。外部専門家派遣事業については、11月現在で67回実施され、そのうち、37回は地域支援に活用されている。	◎ ・外部専門家派遣事業については、3月現在で104回実施され、そのうち55回地域支援に活用された。去年より減少したが、その分本校の教育相談に活用できた。	◎ ・地域の小中学校でもそれぞれの課題があり、外部専門家のニーズが増加している。堺の子どもたちのために支援学校でも地域でも専門家の支援を受けられるようにしてほしい。
	保護者との連携	保護者の悩みや相談を積極的に受け止め、関係機関と連携して、保護者支援・保護者連携の充実を図る。 宮園分校開校に向けて保護者と委員会との連携を図り、よりよい学校づくりを目指す。	・あらゆる機会を用いて保護者との意思疎通を図り保護者からの相談に対して適切に対応する。 ・ケース会議等を充実させ、行政・福祉・医療等関係機関との連携を強化する。 ・百舌鳥通信(学校便り)や学校HPを活用して学校教育情報を積極的に発信する。 ・宮園分校開校に向けて保護者や職員の意見を参考に学校づくりをめざす。	・保護者と学校の意思疎通が図られ、保護者の相談を学校が受け止めたことと捉えている。 ・課題解決のために、関係機関との連携が進む。 ・原則、課業日はHPを更新し、1日200アクセスを目指す。 ・宮園分校の開校に向けて保護者と連携しよりよい学校作りを参画したと捉えている。	学校教育アンケート(保護者・教職員)各関係機関からの反応・評価 学校HPアクセス数	3学期	◎ ・ケース会議やサービス担当者会議は59回実施している。 ・ホームページは、回数に達しない時もあった。	◎ ・コーディネーターによるケース会議やサービス担当者会議は3月現在で90回実施。 ・ホームページは、宿泊行事の時はリアルタイムで公開したのでアクセス数が急増した。普段の生活のアクセス数は200に達しないこともあった。	◎ ・コーディネーターや担任が丁寧な支援をしているので困りごとや悩みを話しやすい雰囲気がかかっていると思う。ぜひ、継続してほしい。 ・ホームページについては、子どもたちのようすがよく分かるので今後も積極的に発信してほしい。

校長より(年度末) 今年度も昨年度の引き続き、公共交通機関を利用して社会体験を行った。また、学校間交流も学部ごとに行い児童生徒も楽しい時間を過ごせた。中学部3年生は、キャリア教育の一環として実際の授産所に行って仕事のお手伝いをしたり、「じゅさんフェスタ」に参加し、買い物きたお客さんに接客の体験もすることができた。高等部がない本校にとって就労につながる大事な機会であった。次年度は、百舌鳥支援学校宮園分校が開校する。本校と分校の交流をどのように進めていくのが課題である。加えて、分校が開校しても本校の老朽化と狭隘化は解消されていない。引き続き委員会に訴えていくとともにチーム百舌鳥で子どもたちの成長のために取り組んでいきたい。

学校関係者評価者から(年度末)
・公共交通機関や外食体験などは、子どもたちの生活に大切なものであることから今年度も積極的に取り組んでほしい。
また、中学部3年生の授産所でも体験も就労経験としては非常に有意義であった。
・宮園分校開校については、子どもたちの安心安全な生活の保障をまずは第一に、ゆくゆくは本校との交流もしていけたらと思う。
・百舌鳥の老朽化と狭隘化に解消には引き続き教育委員会に現状を知っていただき訴えていくことが必要と思われる。